



表紙写真/本部町のタンカン

CONTENTS

ご覧になれます。

- 1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.143**
**患者様や家族に信頼され、地域社会に
貢献できる質の高い安全な医療の実践**
医療法人 博愛会 牧港中央病院 理事長・院長 洲鎌 盛一
- 6 **地域リレーションシップ情報^{⑬④}**
**沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について
第6回「キャリア教育アワード」及び
第5回「キャリア教育推進連携表彰」受賞者が
決定しました! ~沖縄から2社の受賞です!~**
- 8 **けいざい風水**
- 10 **最近の県内経済の動向**
2015年11月の県内景況
- 12 **国内景気動向**
- 14 **沖縄マーケティング情報**
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
②世界の中の沖縄(年次)
③グラフでみる沖縄経済
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 34 **経済社会のできごと** (沖縄、国内・海外)
2015年12月
- 36 **おきぎん調査レポート・バックナンバー** (分野別)
- 40 **ゆがふ編集後記**

おきぎんカトレアクラブ会員の皆様へは「おきぎん調査月報」をインターネットでも公表しております。

<https://cattleya.okinawa-bank.co.jp/index.jsp>

※「おきぎん店舗一覧」につきましては、沖縄銀行ホームページをご参照下さい。

患者様や家族に信頼され、地域社会に貢献できる質の高い安全な医療の実践

医療法人 博愛会 牧港中央病院
理事長
院長 洲鎌 盛一



今回は、開院以来、循環器疾患、血液透析治療を中心に診療を継続し、その長年の積み重ねを活かして、最先端の心臓血管外科手術や不整脈・心不全治療、また、外国人患者の受け入れ等に積極的に取り組んでおられる、医療法人 博愛会 牧港中央病院の洲鎌 盛一 院長にお話を伺って参りました。

循環器病センターとして地域社会に貢献

医療法人博愛会牧港中央病院は昭和52年（1977年）4月にスタートしました。開院以来、循環器疾患、末期腎不全治療（血液透析治療）を専門に、長年にわたる経験を積み重ね、弁膜症手術、冠動脈バイパス手術、不整脈・心不全治療など最先端の治療ができる循環器病センターとしての特徴を作ってまいりました。

平成24年7月の新築移転に伴い、新築施設内には心血管カテーテル治療と心大血管手術が同時に行えるハイブリッド手術室などの設備環境を整えたことで、さらに地域社会に貢献できる有能なスタッフが集まってきています。

私が院長に就任した理由

私は昭和61年よりこの牧港中央病院に勤務していました。前院長が高齢で、また建物の老朽化による建て替えが必要なこともあり、なかなか後継者が見つからず、当時、理事の一員だった私が、平成22年11月に理事長兼院長に選任され就任することになりました。

私が院長に就任した理由は二つあります。当院は緊急手術が多いのですが、スタッフはいつでも短時間で集まり、テキパキと仕事をこなしてくれました。私自身は根っからのオペ専門医師で、実は当時、色々な病院からオファーがありましたが、こんな素晴らしいスタッフを置き去りにすると、後悔すると思ったのが一つめの理由です。

二つめの理由は、やり残したことがあったからです。最先端の心臓血管手術や不整脈・心不全の治療等です。これまでは、開胸する心臓バイパス手術や、風船治療等が主だったのですが、私が院長就任直後、不整脈治療に関するトップレベルのチームが、琉球大学医学部附属病院から当院に来てくれました。従来の治療に加えて、不整脈治療やペースメーカーの治療も加わり、循環器病センターとして大きく発展することができました。

最先端治療の導入

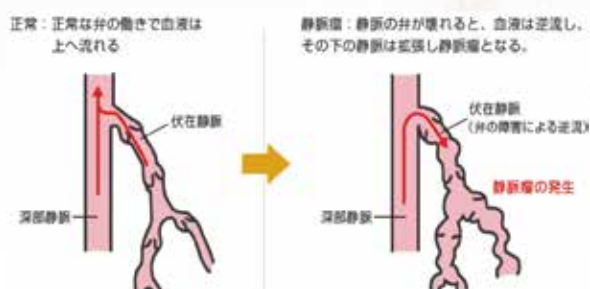
新築移転に伴い、最新のハイブリッド手術室を導入しました。手術室は室内の滅菌度を高め、あらゆる外科手術に対応した手術寝台と、高性能のX線血管造影装置（3次元画像ナビゲーション機能を搭載）を兼ね備えています。カテーテルを使う内科的治療と外科手術による治療を一つの部屋で同時に行うことが出来ることで、例えば、心臓のカテーテルでの治療中に合併症が起きた場合に、迅速な外科的対応が可能になります。



▲ハイブリッド手術室

平成27年5月より、高周波数治療器を用いた下肢静脈瘤に対する血管内治療を開始しました。下肢静脈瘤とは、足の静脈弁が壊れて血液が逆流することにより、足がむくみ、血管が浮き出る病気で、40歳以上の女性に多くみられます。

病気になった静脈を引き抜くストリッピング手術のかわりに、病気になった静脈の中に高周波を発する細いカテーテルを入れて、内側から熱を加えて焼いてしまう治療です。この治療法は心臓の不整脈治療でも使われており、非薬物治療法の代表的な治療法で、最先端の治療であり、患者への負担が少なく、回復が早いのがメリットです。



▲下肢静脈瘤



▲高周波カテーテル治療

他の病院との補完的分野へ積極的に挑む

平成24年12月より、院内に「シャントセンター」を開設しました。「シャント」とは血液透析の導入前に、十分な血液量が確保できるよう、動脈と静脈を直接つなぎ合わせた血管の事をいい、透析を始めるには、「シャント」の造設手術が必要です。

シャント造設のような細血管外科は、技術面や合併症等の問題から敬遠されがちで、対応できるドクターは減少傾向にあり、育成に関しても困難な状況となっています。

当院は、元々、(心臓)血管外科のエキスパートでもあるのですが、「他の病院が難渋するような分野へ、補完的に挑んでいこう」という私の信念の下、造設できるドクターを院内に4名育成し、

積極的に取り組んできました。シャント手術の件数は、これまで年間10～30例でしたが、他の病院からの紹介も増え、最近では200例を超えるようになってきています。

また、信仰上の理由から、輸血を拒む患者の開心術を引き受けたことがあります。他の病院ではできないと言われた手術の依頼でしたが、以前から輸血なしでも出来る心臓手術に取り組み、「実証」の裏付けがあつてこそ引き受けでした。

外国人患者の受入は年間2百人を超える

当院は在沖米国海軍病院や、米国にあるVES (Veterans Evaluation Services) という退役軍人の健診業務を行っている会社と提携しており、その紹介で受け入れた外国人患者は年間2百人を超えます。特に、米国人の死因のトップは心臓病です。在沖米国海軍病院からの紹介も心疾患や不整脈の患者が中心で、沖縄在住の退役軍人の患者も多く受け入れています。

外国人患者の受入は、私たちの病院を発展させるにはどうしたらいいのか、自分達の持っている資源で何ができるのかを考え抜いた結果の取り組みです。

外国人患者を受け入れることにより、職員の仕事へのモチベーションが向上し、英会話の習得にも積極的に励んでもらっています。今では常時、外国人患者の姿が外来に見られ、入院患者の中にも2、3人の外国人患者がいらっしゃいます。



▲VESからの感謝状

2年前に、沖縄近海のクルーズ船から、琉球大学医学部附属病院を通して緊急患者の受入依頼がありました。患者は旅行中の70代の英国人女性で、深部静脈血栓症を患い、その血栓が肺に流れると肺梗塞で亡くなる恐れもありました。深部静脈血栓症は機内や船内などで、長時間同じ姿勢を取り

続けた場合に発症することがよく知られています。幸いにも、薬だけの処置で済み、無事、帰国できたのですが、対応したスタッフへ感謝の手紙を頂きました。

現在、沖縄は外国人観光客が増加傾向にあり、また、医療ツーリズムへの取り組み等も見られますが、それに伴い外国人患者を受け入れる体制整備も今後益々、必要になってくると思います。

“みんな”の病院、“みんな”の発想

新病院建設にあたり、ロゴマークの作成を職員へ募集しました。20名38作品の応募があり、最終的には心臓の象徴であるハートをモチーフにしたロゴが決まり、またその作品応募の中から病院マスコットも決まりました。



▲病院ロゴマーク



▲病院マスコット「マッキー」

職員へ募集したのは、牧港中央病院は“みんな”の病院であり、“みんな”が自身で考えて発想することを、意識付けしたかったからです。

ドクターは看護師等の職員に指示し、職員は指示通りに従えば良いかというと、それは違います。実際は普段から患者に多く接している職員の方が患者をよく把握しており、ドクターの指示が必ずしも最善とは限らない場合もあります。

だからこそ、職員“みんな”が自身で考えて発想することで、より質の高い医療サービスを提供できるのだと考えます。本音を言うと、私自身も“みんな”の力を借りないとやっていけません。

安心・安全な医療の実践

私の病院経営の信念は「安心・安全な医療」です。当たり前ようですが、私にとっては意味深い言葉です。心臓手術は100例のうち、1、2例は合併症等で亡くなる症例に遭遇します。外科医は屍を乗り越えて成長するものと言われるのですが、亡くなった患者や家族の顔が頭に残り、「もしあの時、〇〇していたら」という「後悔」だけは一生消えません。

医大の外科局の研修医だったころ、先天性の疾患がある乳児の担当医となり、当時の指導医が手術を執刀しましたが、不幸にも亡くなりました。その時、亡くなられた乳児のお母さんに「人殺し」と言われた言葉は、今でも頭に深く残っています。

だからこそ、その想いを胸に刻み、スタッフ一同、患者様や家族に信頼される質の高い安心・安全な医療を実践していきたいと強く願っています。

病院概要

●名 称	牧港中央病院
●院 長	洲 鎌 盛 一
●開 設 者	医療法人 博 愛 会
●郵便番号	901-2131
●住 所	沖縄県浦添市牧港1199番地
●電 話	098-877-0575
●F A X	098-879-3415
●U R L	http://www.haku-ai.or.jp/
●診療科目	●循環器内科 ●心臓血管外科 ●内科 ●人工透析内科
●許可病床	99床(一般病床53床／療養病床46床)
●施設基準	一般病棟入院基本料 (7対1入院基本料1) 療養病棟入院基本料 (入院基本料1)
●指 定 等	自立支援医療指定 (腎臓・心臓) 在宅酸素療法、自己腹膜灌流
●職 員 数	計198名 (平成27年4月1日現在)



心臓ドックのご案内

あなたの心臓、元気ですか？

ちょっと胸が痛いとか、重いとか、ドキドキするとか、そういった症状ありませんか？

今や心臓疾患は日本人の三大死因の第2位です。

心疾患・脳疾患は‘沈黙の殺人者’と言われる動脈硬化症が引き金となります。

動脈硬化は知らず知らずに進んでいます。

当院の心臓ドックは心臓疾患のすべてを網羅しています。症状がある人も無い人も手遅れになる前に心臓ドックを受けてみませんか？



心臓ドック 検査内容

- ① 身体検査…身長・体重・腹囲測定・BMI・肥満度・体脂肪
- ② 血液検査…血液一般・腎機能・脂質・血清学的検査・血糖検査
- ③ 尿一般検査…比重・蛋白・糖・ビリルビン・ウロビリノーゲン・潜血・沈渣
- ④ 心電図検査
- ⑤ 胸部レントゲン検査
- ⑥ 冠動脈造影CT検査
- ⑦ 心臓超音波検査

心臓ドック 検査料金と検査時間

検査料金・・・40,000円 + 消費税

検査時間・・・AM9:00～PM1:00（約4時間、その日に結果説明）

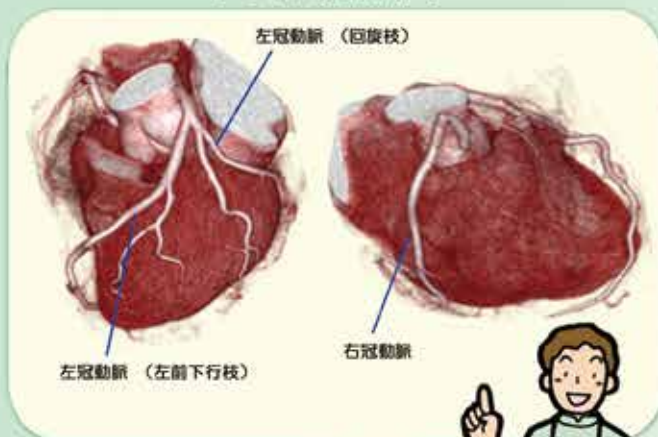
冠動脈CTってなに？

心臓の上を冠のように走っている、心臓を養っている血管を冠動脈と呼びます。

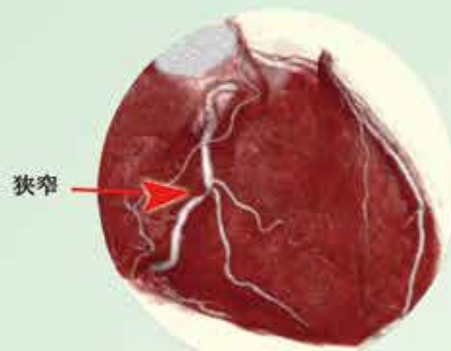
その冠動脈が狭くなったり、詰まったりする事が原因で狭心症や心筋梗塞になります。

冠動脈CTは冠動脈が正常か？狭くなったり、詰まったりしていないか？をCT撮影で調べる検査です。

【 正常な冠動脈 】



【 狭窄がある冠動脈 】



ご予約・お問い合わせはこちらへ

☎ 098-877-0575

中小企業事業主の皆様!

沖縄の がんばる中小企業を 応援します。

中小機構沖縄は、サトウキビ、びんがた、琉球王国のグスクなど、沖縄固有の地域資源等を活用してビジネスに取り組まれる中小企業の皆様を、事業計画づくりの段階から販路開拓まで一貫して支援しています。まずはお気軽にご相談下さい。

《国の認定制度》

農 商 工 連 携

農林漁業者と商工業者が連携した新商品開発・生産・販売を支援します。

地 域 資 源 活 用

地域資源を活用した新商品・新サービスの開発・生産・販売を支援します。

新 連 携

企画・製造・販売など異分野の中小企業が強みを活かした新たな事業分野の開拓を支援します。



沖縄県内でも多くの中小企業が
支援制度を有効活用しています。

加工食品・工芸品・化粧品などの製造業から、リゾートウエディング・観光ツアーなどの観光サービスまで、多種多様な中小企業の皆様が新たな事業展開へのサポートを受けています。

中小機構による支援内容

窓口相談

ビジネスアイデアの具体化

事業計画のブラッシュアップ

※商品開発、市場調査等のアドバイス・評価

沖縄総合事務局等
事業計画の認定

計画認定後のフォローアップ

※計画実施や支援策活用をサポート、販路開拓などの支援

販路開拓! 事業化達成!

地域資源活用事例一覧「沖縄プロデュース」を提供します。▶

中小機構沖縄

検索

中小企業の方が、気軽に経営相談を受ける事ができる電話相談を開設しています。

がんばる中小企業経営ホットライン

TEL/0570-009111

《受付時間/月～金 9:00～17:00》

中小企業向けお役立ち・最新情報 中小企業ビジネス支援サイト

J-Net21 <http://j-net21.smrj.go.jp>



中小企業と地域振興を
もっとサポート

中小機構 沖縄

独立行政法人中小企業基盤整備機構 沖縄事務所
〒901-0152 那覇市小禄1831-1 沖縄産業支援センター 313-1
TEL/098-859-7566 FAX/098-859-5770
<http://www.smrj.go.jp/okinawa/index.html>

✦ 改正相続税法と対策

生前贈与の活用を

「両親の資産も多くないから相続税の心配はない」、そう思っている方は多いのではないのでしょうか。しかし、ことし1月から実施されている相続税法の改正により、今後はそんなことを言っていられなくなるかもしれません。

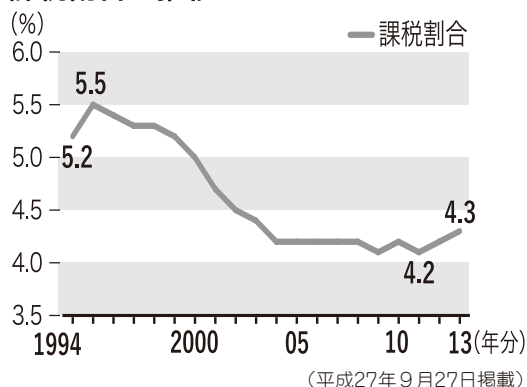
主な改正点としては、最高税率の引き上げなどの税率構造の見直しや基礎控除額の引き下げなどが挙げられます。財務省の試算では、年間死亡者数に占める相続税の課税割合は改正前の2013年の4.3%から、改正後には6%程度に増えると予想されています。

例えば、相続財産にかかる基礎控除額が改正前の5千万円＋（1千万円×法定相続人の数）から、3千万円＋（600万円×法定相続人の数）へと引き下げられた結果、一般のサラリーマン家庭でもマイホームなどの所有不動産と預貯金などの金融資産を合計すると、基礎控除額を超える可能性があります（小規模宅地などの特例適用は除く）。国税庁のホームページで「相続税の申告要否判定コーナー」が開設されていますので、相続税の申告について、おおよその要否を自動判定することができます。

一般的な相続税対策としては、生前贈与を活用し、納税資金の確保と節税対策を同時に行う手段として「暦年課税贈与」「相続時精算課税贈与」「教育資金一括贈与」などが挙げられます。金融機関では個人年金保険など相続税対策に適した商品も数多く取り扱っていますので、この機会に相談を検討されてはいかがでしょうか。

（沖縄銀行 預金相続センター兼預金取引調査センターセンター長 上原 伊都子）

課税割合の推移



✦ 沖縄と修学旅行

将来の大切なリピーター

10月に入り国際通りなどで多くの修学旅行生を見かけるシーズンになりました。沖縄県の調査によると、昨年の本県における修学旅行の受け入れ実績は、2,555校（対前年比2.4%増）、45万9,599人（対前年比3.4%増）となっており、中学が5月、高校が10～12月にピーク時期を迎えています。

本県の観光業界においてもオフシーズンの底上げ役として、重要な位置付けにあります。

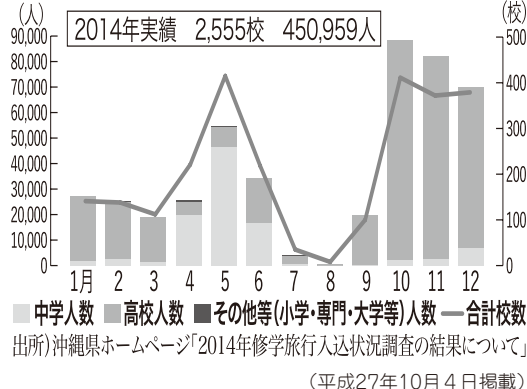
日本修学旅行協会の調査（高等学校）によると、学校側が修学旅行で重点をおいた活動は「歴史学習」「平和学習」「スポーツ体験」「自然・環境学習」が上位を占めており、独特の文化や歴史を有し、自然にあふれ、かつ平和学習が可能な地域となっている本県は、まさに修学旅行のニーズを捉えた地域といえます。

今後、さらに多くの修学旅行を本県に誘致していくためには、国内他地域との競合や消費税増税による旅行費用の増加、観光バス不足などをいかに解決していくかが重要といえます。

修学旅行の原点は、明治時代にまでさかのぼり、重要な教育行事のひとつです。修学旅行で訪れる方々は、沖縄の観光業界を支えてくださるお客さまであると同時に、将来の大切なリピーターです。多くのことを学び、楽しみ、思い出をつくる中で沖縄ファンとなり、「またここに来たい」と思ってもらえるよう、県民が「うとういむち（おもてなし）精神」を持って、温かく迎え入れたいものですね。

（おきぎん経済研究所 研究員 喜瀬 真人）

沖縄修学旅行の2014年月別入込実績



❖ 県内上半期の住宅着工

分譲マンションが倍増

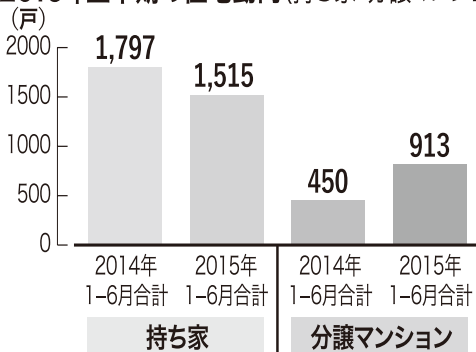
県内の人口動態（2015年9月1日時点）は人口が142万8,647人と前年同月と比べて6,849人増え、世帯数は56万8,547世帯と1万1,263世帯増えています。県は14年に「沖縄県人口増加計画」を策定し「安心して結婚し出産・子育てができる社会」や「バランスのとれた持続的な人口増加社会」に向けた取り組みを進めていることや、魅力的な気候風土を感じた県外からの移住者による社会増もみられるなど、人口増加が続く沖縄の人氣がうかがえます。

住宅市場に目を向けると、国土交通省「建築着工統計調査」では、14年の県内住宅着工戸数は持ち家が3,148戸（前年比20.8%減）、分譲マンションが1,102件（前年比28.5%減）となりました。これは、14年4月の消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減の動きなどが主な要因と考えられます。同調査から15年上半期（1～6月）の動向をみると、持ち家では、引き続き消費税増税の影響などから1,515件で前年同期と比べて15.7%減ったものの、分譲マンションは県内の人口増加、景気回復、県外からの移住ニーズの高まりなどから913件と102.9%も増えています。

住宅市場では県外デベロッパーの参入、不動産業者間の競争などを背景とした企業努力により、材料、構造、デザインが多様化しています。これから住宅取得を検討される方にとっては、施主の趣向に応じたさまざまな住宅の選択肢が増えていくことが期待されます。

（沖縄銀行 ローンFPステーション新都心店長
金城 章人）

2015年上半期の住宅動向(持ち家・分譲マンション)



（平成27年10月11日掲載）

❖ 中国本土からの入域観光客

“爆買い”で国内消費増

日本銀行那覇支店が今月発表した県内企業の短観（県内企業短期経済観測調査）は、全産業の景況感を表す業況判断指数（DI）がプラス44と、1974年の調査開始以来、過去最高となり、14期連続のプラスとなりました。国内外からの観光客数の増加を背景に幅広い業種で好況感が広がっており、観光分野を中心とした県経済の力強さがみられます。

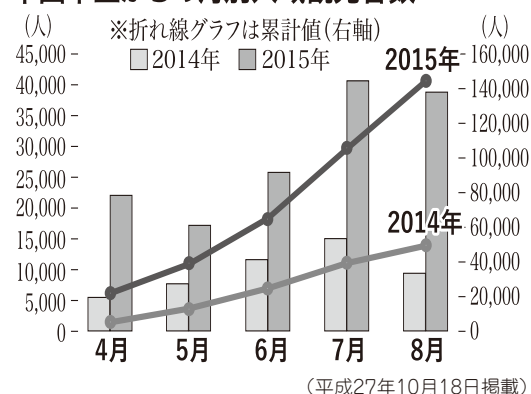
県が毎月発表している「入域観光客数」によると、8月の外国人入域観光客数は15万4,700人と、空路・海路ともに好調に推移し、25ヵ月連続で前年同月を上回りました。外国客の構成比（15年4～8月累計）は台湾36.0%、中国本土19.8%、韓国14.8%、香港12.6%、海外その他16.7%となっており、特に8月の中国本土からの入域観光客数は前年同月比で約4倍と大きく増加しています。

全国的に外国人観光客による国内消費（インバウンド消費）が伸びており、特に中国人観光客による“爆買い”が支えているところが大きいようです。県内でも“爆買い”の現象が全国同様にみられます。一方で、8月には中国の実態経済の悪化を示す統計の発表が続き、世界同時株安に見舞われるなど、中国経済の減速が不安視されています。減速が長期化すれば、“爆買い”も抑えられてしまうかもしれません。

県内を訪れる外国客の構成は中国本土も増えつつあるだけに、今後の中国経済の動向を注視していく必要があります。

（おきぎん経済研究所 企画・総務部長
中江 正一郎）

中国本土からの月別入域観光客数



（平成27年10月18日掲載）

ゆがふ編集後記

今年、世界はどこに向かうのか

お正月のオトソ気分も冷めぬうち、今年の東京証券取引所の大発会は大幅下落でスタート、あれよあれよと六日連続の下落を記録(新記録)し、一日だけ持ち直した後に再び下落、年初来11%の下落水準(執筆時点)にいます。申年は波乱の幕開け、となりました。

銀行や証券会社のマーケット担当者に聞くと、今、中国の代表的株価指数である「上海総合指数」の動きと、元レートの動きに毎日釘付けであるとか。ん？日本の株価って、国内の企業業績に基本的には連動するものだよね、なぜ日本の株価が中国の株価や通貨レートにここまで影響されるの？と文句の一つも言いたいものですが、下がっているのは日本だけでなく世界中の株価が下がっており、ここまで肥大化した中国経済の悪化は世界経済に極めて深刻な影響を与えるのだ、とか。改めて国内経済は我々の思う以上に世界経済とダイレクトにリンクしている、と実感させてくれます。

株価の下落は、原油価格の低下も影響しているようです。ご承知の通り原油価格は2014年の中ごろから下落傾向となり、ついに今年に入って30ドルを割込む水準まで下がってきました。ん？原油安は、日本経済にとっていいことじゃないの、逆に株価が上がってもいいじゃないかと、またまた文句の一つも言いたくなりますが、原油価格や資源価格の過度な下落は、中東や、中南米、アジアの資源輸出国の経済停滞や通貨安を招き、設備投資を鈍らせ、プラントを建設したり資源国に輸出をしている日本企業にはマイナス、さらに、株式市場に流れている中東からのオイルマネーなどの還流を招いて、世界的な株安に振れるのだとか。うーん、それは、理屈はわからないこともないが、そこまで国内株が弱気に反応しなくても、と思うのは私だけでしょうか。

さて、去年は、パリの無差別テロに代表されるような、中東で起きている大変な出来事がヨーロッパ、アメリカにも拡散、ついに今年はインドネシアでテロ発生、世界が不穏な事態に陥っています。ヨーロッパでは経済が減速するなか従来のギリシャ問題や、ウクライナ問題に加え、シリアを始め中東周辺国から大量の難民が流入、国内には移民排斥などのナショナリズムが高まるなど、まるで出口の見えない状況になっています。さらに年明け、中東の両大国であるサウジアラビアとイランが国交を断絶するなど、中東の地政学リスクがまさに顕在化しています。83%の原油を中東に依存している日本としては中東情勢にも目がはなせなくなっており、しかも、中東から日本へ大型タンカーが通るいわゆる「シーレーン」は南シナ海のだ真ん中を通っており、ご承知の通り南シナ海の状況も、「波高し」の状況になりつつあります。世界はいったいどこへ向かうのでしょうか。先月号で、今、沖縄に千歳一隅のチャンスが訪れている、それを掴み取れるのか大きな岐路にある、と申し上げましたが、それも中長期的には世界の安定が大前提であり、それを占う意味からも、世界情勢に目が離せない2016年になると思います。やはり平和が一番です！

(株)おきぎん経済研究所 代表取締役社長 出村郁雄)